

2025年2月3日～25日

共済推進県本部・県支部合同会議

県本部共済推進取り組み報告

| | |
|-----------|----|
| 1. 静岡県本部 | 1 |
| 2. 愛知県本部 | 3 |
| 3. 三重県本部 | 5 |
| 4. 岐阜県本部 | 7 |
| 5. 滋賀県本部 | 9 |
| 6. 京都府本部 | 11 |
| 7. 奈良県本部 | 13 |
| 8. 和歌山県本部 | 15 |
| 9. 大阪府本部 | 17 |
| 10. 兵庫県本部 | 19 |

本部共済推進委員会

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|------------|
| 県名 | 静岡 |
| 作成日 | 2025年1月22日 |
| 作成者 | 安土 功一 |
| 確認者 | 神原 光 |

1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題

※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。

「目標達成にむけた進捗と課題」

共済推進のため、共済推進単組交付金を加入実績に応じて、各単組へ交付する、独自の制度を設けている。また2023年度に共済学習会としてファイナンシャルプランナー合格講座を実施し、13人の方がFP3級に合格した。FP合格者には、各単組の執行部とともに、新採説明会や共済学習会を運営し、新規採用職員の組合加入と共済の同時加入を目指した取り組みをすすめてもらった。

2023年度の目標については未達見込みの状況であるが、県職連合についてはモデル単組として団体生命共済の新契約100件を101件で超過達成した。(2024年5月発効)

「今後、重点的に取り組む課題」

- ①新規採用職員の共済同時加入、若年層対策
- ②高齢層対策

本年度は、「加入拡大モデル単組」において、新たな取り組みを実施し、来年度以降県全体の取り組みに広げていきたいと考えている。

①については、4月1日の新採組合加入説明会とは別日において共済加入学習会を開催し、6月以降に新採及び採用3～4年程度の組合員向け、「ライフプランニング又は社会人のお金の使い方講座等」を予定している。

②については、定年引上げにより管理職が組合員に復帰することを前提に、管理職に対しても、団生および長共制度及び組合の再加入についての説明会の開催を検討している。

左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。

■2024年6月以降の取り組み

高齢層対策の一環として、基本型加入のみ55～59歳の組合員（モデル単組と希望する2単組、対象人数199人）を対象に、団体生命共済加入促進のチラシ配布を実施したが、新契約には結びついていない。

■継続募集の取り組み

「共済説明会」などとせず「ライフプランセミナー」「ランチセミナー」などのソフトなネーミングとすること、制度説明よりも「保障の掛け方」や「賃金明細の読み方」を起点とすることを意識し、自治労組合員が持つ福利厚生制度などを踏まえ、じちろう共済での保障設計提案を行うことで、労働組合が自主福祉活動を取り組む意義についても併せて伝えた。

■継続募集の課題・2026年度末に向けた取り組み

個別相談対応要請が多く、単組自主福祉活動としての「スケールメリット」が活かしきれていない。今回の継続募集での組合員本人・新契約件数は86件であったが、単組要請に基づく県支部職員の活動量（学習会・セミナー・相談会）は継続募集期間だけで延べ63回に及んでおり、取り組み1回あたりの新契約獲得件数は1.36件にとどまっている。

コストパフォーマンスがすべてではないものの、少人数県支部であることから内部事務への影響も大きく、取り組みの効率化を図る必要がある。単組の意向は「個別面談」に重きを置いているが、より多くの組合員への情報提供へ取り組みをシフトさせ、取り組み自体のスケールメリット追求へ早期に転換しなければ同じような状況を繰り返す可能性が高い。（前任地ではセミナー1回あたり新契約3.96件、最大値は1回あたり28件）

県支部、単組それぞれの役割を明確に取り組みを進めていくことが今一度求められていると考える。

2. 共済推進県本部交付金の活用について

実施している取り組み☑してください。

- 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている
- 単組に支払った交付金の使われ方を把握している

具体的な取り組み

●県本部で共済推進単組交付金規定を定め、交付基準に基づき交付している。前年度実績(6月～5月)に対して、8月に交付金を支払っている。

【主な交付内容】

- ・団体生命共済新規件数 1件あたり5,000円
- ・マイカー共済・長期共済・税制適格年金・親子共済 各新規件数1件あたり1,000円
- ・非正規労働者組合組織化・拡大単組、推進単組交付金 1単組あたり5万円 非正規組合員へ共済を推進し、団体生命共済又はマイカー共済への非正規組合員の新規加入実績がある単組へ交付する。
- ・自治労共済基本型の新規団体加入への交付金 組合員1人あたり2,000円

3. 2025年4月新規採用者対策

実施している取り組み☑してください。

- 県本部新採対策会議の開催
- 新採組織化方針、具体的な取り組み提起
- 組合と団体生命共済の同時加入方針提起
- 同時加入に向けた具体策の提案
- 県本部・県支部合同の単組オルグの実施
- 県本部・単組主催の執行部学習会の開催
- 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供

具体的な取り組み

2025年1月10日に県本部共済推進委員会と県支部合同主催による「2025年4月新規採用者加入拡大会議」を開催し、自治労本部方針、自治労共済推進本部の基本的考え方に沿った具体的な取り組み提起を行った。基本的に「じちろう共済推進マニュアル」および共済本部発信文書に沿った内容で提起済。

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

| | |
|--|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 組織化方針の単組への提起 <input type="checkbox"/> 対象者の把握と説明会等の実施 <input checked="" type="checkbox"/> じちろう共済のアピール | <p>具体的な取り組み</p> <p>2023年6月の県本部中央委員会において、暫定再任用職員・定年引き上げ職員・定年前短時間再任用職員の組織化方針を決定し、キャラバンやブロック会議・組織拡大行動委員会において説明や進捗状況の確認を行った。</p> <p>共済推進に関しては、団体生命共済や長期共済の加入に年齢の制限があることから、管理職も含めて58歳までに共済の説明を行うよう単組に呼びかけている。またキャラバンの際に、当局に対して退職者説明会等の後に組合の説明会の実施や退職者説明会の際にチラシ等の配布について要求している。</p> <p>2月に開催予定の単組代表者会議や春闘キャラバンの際にも、引き続き単組への呼びかけや当局へ要求を行っていく。</p> <p>2024年12月6日に50歳以上の自治労組合員を対象とした「ミドルエイジ組合員のためのライフプランセミナー」を開催した。内容は①FPIによるセカンドライフに関する考え方の講演、②共済県支部による退職後制度説明の2本立てとした。</p> <p>一般組合員を対象に行うセミナーは静岡県支部としては初開催であったが、結果として62人の参加、アンケート結果も「大好評」であった。</p> <p>なお、アンケートでは「もっと早く聞きたかった」「3年前に聴いていれば」といった声も多く見受けられたことから、毎年の恒例事業とすることで広く組合員への情報周知を図っていく。本事業については50代組合員の①団体生命共済既加入者に対する退職に向けた情報提供、②団体生命共済未加入者に対する加入促進という「二つの役割」を意識し、次年度以降もコンテンツを精査し、企画立案、実行する。</p> |
|--|--|

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

| | |
|---|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 県本部共済推進委員会で進捗確認 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オグの実施 | <p>具体的な取り組み</p> <p>県職労連合・・・2025年1月発効時点で新契約57件。目標120件に対し、進捗に遅れが生じているため、挽回策としてスポット募集では病院支部に限定した取り組みを予定している。</p> <p>沼津市労連・・・2025年1月発効時点で新契約7件。目標30件に対し、進捗は大幅に遅れが生じている。スポット募集では単組にて若年層を対象としたチラシを作成、配布の取り組みを行う。</p> |
|---|--|

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

| | |
|---|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認 <input type="checkbox"/> 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知 <input type="checkbox"/> マニュアルの単組への配布 <input type="checkbox"/> 単組執行部オグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案 | <p>具体的な取り組み</p> <p>1月10日の新採加入拡大会議において自治労本部郷局長、自治労共済推進本部永田課長、瀬戸家FPの講演を受け、「じちろう共済推進マニュアル」および「秋田県支部」での取り組み例を引き合いに、本部方針に基づいた組合加入+団生同時加入の取り組みの具体について提起した。</p> <p>単組により反応は様々ではあるものの、取り組みの必要性については一定理解を得られているため、まずは成功事例を生み出し、継続した取り組みとすることで「定着化」と「水平展開」を図っていく。</p> |
|---|---|

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|------------|
| 県名 | 愛知 |
| 作成日 | 2025年1月28日 |
| 作成者 | 前畑 美帆 |
| 確認者 | 鈴木 秀和 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|--|--|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」 2023年度の目標に対する進捗率（2024.5.22時点/マイカーは2024.3.31時点） 総合115.7% 団生113.0% 火災56.0% 自然災害41.0% 長期101.0% マイカー67.2% 火災・自然災害の進捗が低調であり、さらなる推進が必要であると考えている</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」 目標を達成したものは引き続き最低限目標を維持し、住宅に係る保障の推進が必要であると考えている。</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2024年6月報告以降の取り組みと課題 マイカー以外の制度について、前年度と比較して若干新規加入が少ない。とくに、長共・税適について、昨年度特化した取り組みがされた結果、積立に関心があった組合員は一定加入したことから、本年度の新規加入率の低下につながったと考えられるため、今後は、新たなニーズを発掘している必要がある。 ●2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み 1月実績+継続募集の取り組み結果で団生本人の新規契約件数は94件継続募集の結果が、前年度より下回っているものの、前年通り新採の取り組みができれば目標件数は達成する見込み。 あわせて、5月発効スポット募集にて、未加入者プリントの配布(名古屋)、学習会の実施を行っている。 |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>規定に基づき、単組に支払いをし共済推進へ活用されている</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>県本部の当面にて、組合と団生の同時確認に向けた取り組みを確認。共済推進委員会において、具体的な取り組み方針とツールを提案している。また、1月の共済担当者会議や単組オルグにて新採対策の取り組みを要請している。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

実施している取り組み☑してください。

- 組織化方針の単組への提起
- 対象者の把握と説明会等の実施
- じちろう共済のアピール

具体的な取り組み

県本部運動方針の中で共済の活用も含めて、組織化方針を確認している。昨年度実施の状況調査をもとに単組オルグを実施、各単組の状況や課題を把握していく。
9月の共済担当者会議および、共済推進委員会、単組オルグにおいて、役職定年者および定年を迎える組合員に対して、共済を活用するよう要請している。なお、定年の年よりも数年前に実施をし意識づけることが重要であることから、55歳以上等の組合員を対象に準備セミナーを実施するよう提案している。

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

実施している取り組み☑してください。

- 県本部共済推進委員会で進捗確認
- 県本部・県支部合同の単組オルグの実施

具体的な取り組み

毎月の共済推進委員会にて実績状況の確認を行っている

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

実施している取り組み☑してください。

- 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認
- 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知
- マニュアルの単組への配布
- 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案

具体的な取り組み

マニュアルを配布し、活用の要請している。

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|------------|
| 県名 | 三重県 |
| 作成日 | 2025年1月24日 |
| 作成者 | 川合 正晃 |
| 確認者 | 原田 貴文 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|---|---|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」 役員学習会を通じ、多くの単組で取り組む意義が浸透してきており、県本部・県支部のきめ細やかなフォローが必要。</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」 執行部・青年部を中心とした継続した推進体制の構築に向け、役員向け学習会を実施している。 県支部の体制から推進に出られる職員が限られており、県本部専従役員も含めた学習会への派遣が必要である。</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および <u>2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み</u> 2点について記入してください。</p> <p>県支部役職員による単組での少人数セミナーを8単組で延べ25回実施してきた（12月末時点）。結果、3月発効までの新規契約件数は161件で、昨年より39件増加した。 ただ、目標である「新入組合員の団体生命共済100%加入」に対し、12月末時点で25%（187人/755人）の加入率にとどまっている。 12月に、団体生命共済の加入状況を基に自治体単組から抽出した17単組を対象に臨時でオルグを実施し、団生を含めた共済各メニューの目標達成にむけた取り組み強化を要請した。 共済事業の2024年度末にむけて、新入組合員の団体生命共済100%加入が最大の課題であり、2月から自治体単組へのオルグを行い、取り組みの見直しなどを協議していく。</p> <p>三重県本部の共済推進新方針の策定から約2年が経過していることから、県本部共済推進委員会（12/19実施）や単組代表者会議（1/9実施）で改めて方針や2026年度末団生保有目標件数について説明を行った。今後も、県本部共済推進委員会で委員を対象に学習会を実施し、所属単組における共済の推進役として理解を深めていく。</p> <p>県本部・県支部の大会等で決定した目標や単組オルグでの協議事項の進捗状況について、定期的に単組と協議を行い、目標達成への意識を高めていくことが課題である。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている <input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している | <p>具体的な取り組み</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催 <input type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起 <input type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起 <input type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催 <input type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供 | <p>具体的な取り組み</p> <p>県本部共済集会（2/14）で確認をして、自治体単組への県本部・県支部定例オルグを実施する。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

実施している取り組み☑してください。

- 組織化方針の単組への提起
- 対象者の把握と説明会等の実施
- じちろう共済のアピール

具体的な取り組み

組織化について、昨年（8/26）・今年（1/9）の2回の単組代表者会議で、スケジュールや取り組み方法を確認した。2月に開催するブロック別単組代表者会議（県内4か所）でも再度周知し、取り組み終盤時期の対応を強化する。

また、単組の退職者説明会に県支部役職員が参加し、退職後の共済利用（退職者団生への移行、マイカー・住まいる共済の退職者会での利用）のため共済各メニューへの早期加入について説明している。

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

実施している取り組み☑してください。

- 県本部共済推進委員会で進捗確認
- 県本部・県支部合同の単組オルグの実施

具体的な取り組み

推進委員会（年4回ほど実施）では毎回、単組別に①共済メニュー別の加入件数、②団生加入件数（組合員全体）、③団生加入件数（新入組合員）を報告し、目標件数との状況を共有している。

6月（全単組）・9月（自治体単組）の県本部・県支部定例単組オルグ時に共済事業の目標達成にむけた進捗状況を共有し、単組組合員を対象に県支部役職員による少人数セミナーを推進してきた。

今年度新たに加入拡大モデル単組に指定した玉城町職員組合は、近隣の3町の単組を重点単組に指定し、目標達成にむけた合同会議など連携した取り組みを協議していく。

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

実施している取り組み☑してください。

- 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認
- 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知
- マニュアルの単組への配布
- 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案

具体的な取り組み

県本部共済推進委員会で県本部方針について再確認し、推進マニュアルを配布した。

単組へは推進マニュアルを配布し、単組代表者会議（1/9実施）で推進のための資料として活用を依頼した。

2月から実施する県本部・県支部定例単組オルグで改めてマニュアルを配布し、一層の活用を図る。

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|-------|
| 県名 | 岐阜県本部 |
| 作成日 | 1月22日 |
| 作成者 | 子安 英俊 |
| 確認者 | 高倉 昭仁 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|--|---|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」 2023年度新規取組目標については、基軸制度である「団体生命共済」と「じちろうマイカー共済」において目標達成の見込みである。 今後は、さらなる団体生命共済の加入率拡大にむけて県本部・県支部が強固に連携を図り、取り組みを前進させる必要がある。</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」 目標達成にむけて数字を意識した取り組みを単組に求めていくこととしたい。そのためには、組合員に広く制度を周知する必要があるため、単組の一部の役員や書記のみならず、単組執行部全体としての取り組みが不可欠であることから、県支部とも連携を図りながら単組執行部共済学習会の開催を実施していきたい。</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p><2024年6月報告以降の取り組みと課題> (1) 取り組み ①県本部共済推進委員会と県支部共済推進委員会の議案を区分し、運動として取り組む共済推進を共有した。 ②スポット募集を8/1・10/1・12/1・3/1・5/1に実施した。 ③本部作成の「じちろう共済推進マニュアル」を説明した。 ④新採対策マニュアルを県本部共済推進委員会で作成し、単組に共有した。 (2) 課題 ①単組や組合員に周知が充分ではない。 ②単組の共済担当役員の育成</p> <p><2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み> 引き続き、県本部・県支部・単組が連携をとり、組合員に「じちろう共済」の優位性を周知する。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>単組オルグ等を通じて交付金の進捗状況について報告している。</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>2025年4月新規採用者にむけたマニュアルを作成し、12/13開催の県本部共済推進委員会において、協議・確認した。 また、1月から2月に県本部・県支部合同の単組オルグを実施し、内容について周知している。 さらに、2/1開催の県本部共済集会では、外部講師を招いて新採対策を主眼においた集会を企画開催した。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

| | |
|---|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 組織化方針の単組への提起 <input checked="" type="checkbox"/> 対象者の把握と説明会等の実施 <input checked="" type="checkbox"/> じちろう共済のアピール | <p>具体的な取り組み</p> <p>第118回県本部定期大会において組織化方針を確認した。 また、各単組において退職者説明会の実施を依頼した。</p> |
|---|--|

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

| | |
|---|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 県本部共済推進委員会で進捗確認 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施 | <p>具体的な取り組み</p> <p>定期的に単組書記局を訪問し、状況確認に努めている。 また、1月から2月に県本部・県支部合同の全単組オルグを実施している。</p> |
|---|---|

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

| | |
|---|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認 <input type="checkbox"/> 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知 <input checked="" type="checkbox"/> マニュアルの単組への配布 <input type="checkbox"/> 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案 | <p>具体的な取り組み</p> <p>12/13開催の県本部中央執行委員会および県本部共済推進委員会において内容の報告をし、活用を依頼した上で、各単組に配布した。 また、1月～2月開催の単組オルグ（県本部・県支部・推進本部）において県本部作成の新採マニュアルとともに活用するよう依頼する。</p> |
|---|--|

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|------------|
| 県名 | 滋賀県 |
| 作成日 | 2025年1月21日 |
| 作成者 | 北村 賢太郎 |
| 確認者 | 宮川 亜佐子 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|--|---|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」 (1)県本部・県支部合同PT会議（プロジェクトチーム会議：内局）で取り組み状況の進捗を管理 [目標達成にむけての課題] ・単組へのオルグ機能の強化が求められる。 ・オルグで判明した課題の共有化と県本部、県支部の単組支援体制の強化 ・良好な人間関係、信頼関係の構築が不可欠</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」 ★重点項目に対して単組組織活動の強化の視点にこだわって取り組む。 ★単組単位の課題整理をすすめる。 ★取り組みをつくる時には、単組担当者だけの取り組みにさせない。（個人対応にならないように支援し、組織活動の成果につなげる。）</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p>(1) 取り組みと課題 ①県職のグループ保険更新時期が11月であったのに対して、県職のスイッチが入るのが6月ごろと遅くスポット募集がタイトとなった。 また、グループ保険は、業務時間中に斡旋に回っているため、じちろう共済も斡旋許可の申請する必要がある。また個別保障相談時にその場でグループ保険とじちろう団生の生涯掛金比較ができるツールが必要なため、本部からの提供を求める。 ※団生およびマイカーの優位性に気付いた職員が組合加入し進展したことからもったいない。 ②グループ保険（新規および更新）締め切り後の解約時期が、効力発効の前月であることが分かりじちろう共済へ切替えする組合員を発掘することができた。 ③書記局のない単組に対しては共済担当者と連携し、県本部作成資料を組合員に配布してもらう等、負担軽減を図った。 ④なぜ組合が組合員が選んで入っている保険共済を見直す必要があるのか、保険屋ではないという意識がある単組で拡がり欠ける。（執行役員と書記との亀裂） ※説明しても耳がふさがっているため伝わらない。 ⑤単組の状況把握が整い始めたので、動きが悪いが興味を示している単組執行委員を中心に強制力の強い動員をかけて共済セミナーを半日実施し、外部講師によるセミナーやグループワークを実施した。 （理解は深まり、素晴らしいものだと思いが、マイカー見積りに発展すらしいない）</p> <p>(2) 2026年度団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み ①2月に新採加入オルグ、5月に更新および共済担当者へ年間スケジュールの説明、9月にグループ保険乗換えオルグを実施することで1件づつ地道に成果を上げる。 ②共済未加入執行委員の個別保障相談を増やし、加入＝理解者を増やす事で単組に広めてもらう活動をしていく。 ③モデル単組を中心にア執行委員学習会イ組合員学習会ウ個別保障のサイクルを確立する。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共済推進等による交付金を自主福祉運動推進へ充填する単組があった。 ・県本部からは単組組織力強化の為に加入者を増やし、書記や賃料にかかる経費の負担軽減を推奨している。 |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>①県本部新採対策会議にて同時加入方針提起 ※メリットをしっかりと落とし込む運動を提起</p> <p>②2月に単組オルグを実施 単組ごとに、2024年11月までの新採の加入状況を提示し、2024年新規採用者に向けての推進要請と、2025年4月新規採用者に対する学習会・説明会の実施要請および日程調整</p> <p>③11月に執行部向けの学習会を開催したため、ユース部層への学習会を開催予定</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

| | |
|---|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 組織化方針の単組への提起 <input type="checkbox"/> 対象者の把握と説明会等の実施 <input checked="" type="checkbox"/> じちろう共済のアピール | <p>具体的な取り組み</p> <p>共済加入者の受入れについて、各単組の状況を調査中</p> |
|---|---|

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

| | |
|---|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 県本部共済推進委員会で進捗確認 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施 | <p>具体的な取り組み</p> <p>①単組オルグでは県支部に帯同し、県本部として現状確認および推進要請をおこなっている。</p> <p>②学習会においても、組合員や執行委員に向けて、あらためて「組合に加入する意義」や「共済加入することで得られるお得情報」を中心に説明している。</p> |
|---|---|

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

| | |
|---|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認 <input type="checkbox"/> 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知 <input checked="" type="checkbox"/> マニュアルの単組への配布 <input type="checkbox"/> 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案 | <p>具体的な取り組み</p> <p>①2025年2月および5月の単組オルグ時に活用方法含め、周知をはかる。</p> |
|---|--|

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|--------------|
| 県名 | 京都府本部共済推進委員会 |
| 作成日 | 2025年1月28日 |
| 作成者 | 増永（書記長） |
| 確認者 | 久米（事務局長） |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|---|--|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」</p> <p>①加入拡大モデル単組である1単組（八幡市職労）については目標を達成したが、残る1単組についても更なる推進を行う。</p> <p>②競合単組など、組合未加入者が多い単組のとりわけ若年層において、まったく保険に入っていない人が見受けられる。独身者も増えている。自らの人生設計をシミュレーションする中で、自治労共済の優位性を積極的にアピールしていくことが必要。</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」</p> <p>○加入率の低い単組へのオルグ、加入率の拡大</p> <p>○単組役員の共済全員加入</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p>①について、達成できなかった原因としては、団生の優位性などの組合員への周知が不十分であった点が上げられる。これを踏まえ6月以降、単組と府支部が連携し、恒常的に組合員説明会などを実施した結果、目標の20件に対して11月末時点で14件の加入を得ており、引き続き取り組みを推進している。</p> <p>②競合単組へのアプローチは進捗していないのが現状。初期段階として団生より比較的取り組みやすい既存の組合役員にマイカー共済の見積もりを促しているところ。</p> <p>○加入率の低い単組、○単組役員の共済加入への対応としては、2月5日～6日に北部単組（京丹後市職、福知山市職労）へ「北部共済キャラバン」として、昼休みおよび終業後の時間帯に当該単組で組合員を集めてもらい、会場の確保や参加者へのお弁当の準備もお願いしている。そうすることにより、単組役員に能動的な意識が醸成され、積極性に繋がると考えている。「共済キャラバン」には、岡本委員長はじめ書記長、オルガナイザー、府支部の久米事務局長が現地に入り説明を行うことで、単組役員をはじめ複数組合員の団生、マイカー共済加入をめざす。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>【団体生命共済加入促進キャンペーン】<単組に交付金支給></p> <p>✳️新規加入促進交付金：単組に交付金支給（@：5,000円）・・・A</p> <p>✳️「団体生命共済若年層メニューおためしキャンペーン」<お試し期間：約1年></p> <p>※団体生命共済の「若年層メニュー」限定キャンペーン</p> <p>①加入拡大モデル単組：自治労京都市職・八幡市職労</p> <p>▽交付額：@15,000円（但し、上記1）①との併用はなし。上限20万円）</p> <p>▽交付時期：2025年4月交付予定。</p> <p>②加入拡大モデル単組以外</p> <p>▽交付額：@15,000円（但し、上記✳️との併用はなし。上限20万円）</p> <p>▽交付時期：2025年4月交付予定。</p> <p>以上について、毎月の執行委員会やオルグにより単組へ周知。</p> <p><Aの交付実績>10/1～12/9 …8単組14件、70,000円</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>○新採対策：2025府本部なかまづくり大作戦</p> <p>日時等：2月22日（土）14：00～17：00 京都経済センター</p> <p>内容：ユニオンカレッジ（若手組合員）メンバーによる新採加入策の提案、各単組の事例共有などにより、若者目線の具体的、実践的な新採加入のための方策を参加者間で共有し、単組の取り組みに生かす。</p> <p>○府本部・府支部合同の単組オルグ：「北部共済キャラバン」</p> <p>日時等：2月5日（水）・6日（木）12:00～13:00、17:30～19:30</p> <p>場所：北部単組（京丹後市職、福知山市職労）</p> <p>内容等：昼休み、終業後の時間帯に対象単組に組合員を集めてもらい、会場の確保や参加者へのお弁当の準備もしてもらう。そうすることにより、単組役員に能動的な意識が醸成され、積極性に繋がると考えている。</p> <p>帯同者：府本部岡本委員長、増永書記長、中原オルガナイザー、府支部久米事務局長</p> <p>目標：単組役員をはじめ複数組合員の団生、マイカー共済加入をめざす。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

実施している取り組み☑してください。

- 組織化方針の単組への提起
- 対象者の把握と説明会等の実施
- じちろう共済のアピール

具体的な取り組み

○定年引上げ対象者にむけた取り組みについては、以下の①②を対象者へむけ周知浸透するように単組へ働きかけています。

①団体生命共済・・・満60歳以下➡加入すれば退職者団生（85歳まで継続可能）へ移行できる

②長期共済・・・満59歳以下➡59歳までに団生に加入すれば長期共済に加入できる※長期共済は毎月加入・変更が可能（利率：1.25%、退職金の運用に活用）

また、自治労共済推進本部の長期共済加入キャンペーンについて、2月6・7日に担当者会議を開催し、5月スポット募集にあわせた加入を促し未加入者を減らすよう取り組みを進めます。

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

実施している取り組み☑してください。

- 県本部共済推進委員会で進捗確認
- 県本部・県支部合同の単組オグの実施

具体的な取り組み

府支部が必要に応じて説明会や個別保障相談会を随時実施。
府本部、府支部が個別に進捗状況の確認等を行い情報共有を行っている。

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

実施している取り組み☑してください。

- 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認
- 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知
- マニュアルの単組への配布
- 単組執行部オグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案

具体的な取り組み

執行委員会・共済推進委員会で府支部が冊子の内容を説明し、単組への周知を呼びかけた。

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|------------|
| 県名 | 奈良 |
| 作成日 | 2025年1月18日 |
| 作成者 | 幸田 彰子 |
| 確認者 | 杉田 勝哉 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|--|---|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」</p> <p>①グループ保険（きずな）対策 ②青年部を中心とした若年層対策 ③県本部・県支部・奈良推進本部・単組と連携を強化し、年間行動スケジュールに基づいた中期的な取り組み活動課題 ④加入拡大モデル単組を中心とした取り組み</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」</p> <p>①新採対策を中心とした若年層の加入率拡大 ②団生・マイカー・長共税適を中心とした新規加入件数・口数の拡大 ③グループ保険対策</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p>2024年6月以降の取り組み 団生新規加入 目標141件 実績50件。(達成率35.4%) マイカー221件中 実績70件(達成率31.6%)</p> <p>課題 ①グループ保険対策としてスポット・継続時個人相談会を開催。 きずなからの切替促進 ②8月、9月、10月、1月発効スポット募集、 ③マイカー共済10月1日～12月末まで 成約キャンペーン 実績：見積件数50件、成約件数33件) ④長共・税適キャンペーン（1月～3月） ⑤加入拡大モデル単組 大和高田市職(20件中3件) 11/26個別相談会 桜井市職（20件中5件） 8/20組合員を退職にしたセミナー（40名参加）、 12/12組合員壮年部を対象にしたセミナー（40名参加） 11/25、12/2個別相談会</p> <p>課題 単組執行部の団生・マイカー加入促進 組織的な取り組みを行う 今後の取り組み 5月1日発効 スポット募集 3月～5月 マイカー見積りキャンペーン 1月～3月 長共・税適キャンペーン</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>団生新規加入1件につき加入推進費として単組に交付金を支払っている。 県本部主催学習会・セミナーでの講師料・会議費用</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>12/16県本部新採対策会議、12/23県本部執行委員会、1/20中央委員会で提起。新採取り組み方針確認。</p> <p>①組合加入と同時に基本型+団生加入に取り組むことを確認 ②1枚で基本型と団生同時加入できる申込書使用。 ③粗品にボールペン ④新採リーフレットに記入例掲載 ⑤4月メーデーのあと青年部主催新採歓迎会時共済学習会開催予定</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

| | |
|---|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 組織化方針の単組への提起 <input type="checkbox"/> 対象者の把握と説明会等の実施 <input type="checkbox"/> じちろう共済のアピール | <p>具体的な取り組み</p> <p>大会・中央委員会・単代・県本部執行委員会・単組オルグで提起・確認</p> |
|---|---|

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

| | |
|---|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 県本部共済推進委員会で進捗確認 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施 | <p>具体的な取り組み</p> <p>加入拡大モデル単組選定・進捗確認を共済推進委員会で確認している 県本部3役と県支部・推進本部でモデル単組に対し打ち合わせ・オルグを実施している</p> |
|---|---|

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

| | |
|---|-----------------|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認 <input type="checkbox"/> 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知 <input checked="" type="checkbox"/> マニュアルの単組への配布 <input type="checkbox"/> 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案 | <p>具体的な取り組み</p> |
|---|-----------------|

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|------------|
| 県名 | 和歌山 |
| 作成日 | 2025年1月7日 |
| 作成者 | 日吉 邦彦・新井 亮 |
| 確認者 | 加藤 康夫 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|---|---|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」 5月21日現在、 新規採用者説明会：6単組・9支部 参加者数443名 新規採用者個別保障相談対応：8支部 112名 他共済（競合）からの切替施策として 個別保障相談会：12単組 79人</p> <p>6月末時点で、 新規採用者説明会：8単組・9支部 参加者数463名 新規採用者個別保障相談対応：14単組8支部 282名（県職労129人）</p> <p>他共済（競合）からの切替施策として 個別保障相談会：12単組・8支部 266人（県職労143人） 他共済（競合）での取り組み開始が早期から展開されているため、今後の取り組みスケジュールの再考と推進体制の整理が必要となっています。</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」 2023年度・2024年度の新規採用者への再アプローチとグループ保険からの若年層を中心とした切替施策の実行で団体生命共済若年層の加入率向上と、引き続きじちろうマイカー共済の見積り案内の徹底を図り、早期3,000台到達をめざし保有口数の底上げをはかります。</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p>（1）2024年6月報告以降の取り組みと課題</p> <p>①県職労におけるG保険からの切り替え取り組み 2025年1月スポット募集を展開し、6月から8月の取り組み期間内に29日間、8支部において個別保障相談会を実施し、258人の組合員と面談しました。最終的に106人が団体生命共済へ加入しました。 自治労共済推進本部、職域生協統括本部を通じ、募集締切日を発効日の前日から3ヶ月を超え6ヶ月以内となる場合の取扱いを適用することで、募集開始を例年よりも10日間早めたことで、グループ保険の更新前に多くの支部で個別相談会を設定することができました。新規契約数では前年の94件に対し、106件と昨年以上の実績となり、加入型においては、昨年は若年層対策を重点的に取り組んだことにより、A型23コースでの加入が全体の62%（55件）であったのに対し、今期は15%（16件）となり、F型以上の型加入が増加し、じちろう共済のメイン保障化が進んでいます。</p> <p>②2025年2月継続募集の取り組み 9月5日から10月17日を募集期間とし、個別保障相談会の実施を中心に取り組みを展開しました。個別保障相談会の開催は、8単組8支部での実施となり、209人の組合員と個別保障相談を実施しました。 昨年度の継続募集では団体生命共済58件、長期共済22件、税制適格年金19件、火災共済5件、自然災害共済6件の新規加入でしたが、今期は、団体生命共済45名、長期共済12件、税制適格年金12件、火災共済3件、自然災害共済3件となっています。</p> <p>（2）2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み 自治労本部における和歌山の団体生命共済の保有件数目標は3,105件です。2024年12月段階で、団体生命共済の保有数は3,057件（現職2,870件、退職187件）となっています。ここへ1月発効106件、2月発効45件を足し込むと、3,208件となり退職者の動向次第ではありますが、2024年度内に組織目標の達成は見込まれると推察しています。和歌山では、新規採用者対策と競合対策をすすめ、2026年度内に現職者の団体生命共済の保有数3,105件の確保に取り組めます。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>県本部共済推進委員会において、交付金制度を創設し、積極的に加入促進を行った単組等に対し、交付金を支払ってきた。単組は、これを受け、説明会やキャンペーンに要する諸費用等に活用しています。</p> <p>また、県本部共済推進委員会においても、交付金を活用し、県支部と合同で、単組責任者や担当者を集めた会議を開催し、単組間交流や知識の向上を図っています。</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>①2024年12月の県支部共済推進委員会・単組責任者・担当者会議で2025年の新規採用者対策の基本方針と組合とじちろう団体生命共済の同時加入の取り組みの概要を提案しました。</p> <p>②2月から3月にかけて、県本部・県支部・県推進本部合同の単組オルグを実施します。</p> <p>③2025年2月25日に、県本部主催の新規採用者対策会議を開催する予定です。ここでは、県支部から同時加入に向けた具体策や、プレ印字等の推進ツールの実際の展開方法を提案します。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

| | |
|--|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 組織化方針の単組への提起 <input type="checkbox"/> 対象者の把握と説明会等の実施 <input checked="" type="checkbox"/> じちろう共済のアピール | <p>具体的な取り組み</p> <p>役職定年者等の組織化については、2023年10月に開催した県本部単組代表者会議において確認がなされ、積極的な単組支援を行うとともに、各単組においてオルグや個別に声掛けを行った結果、県本部全体で8割程度の加入している状況です。</p> <p>今後も、県本部として2025年2月に開催予定の単組代表者会議など各会議や単組オルグにおいて継続的な呼びかけを実施するとともに、最低限昨年度以上の加入率を目標とし、取り組みを進めます。</p> <p>同時に、じちろう共済の優位性アピールについては、組織化を行う上で、不可欠な取り組みであることから、県支部共済推進委員会、単組責任者、担当者会議等において、引き続き知識向上のため機会を提供します。</p> |
|--|---|

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

| | |
|---|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 県本部共済推進委員会で進捗確認 <input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施 | <p>具体的な取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ①県本部・県支部共済推進委員会で実績状況を確認しています。 ②モデル単組の和歌山県職労・有田市職連・那智勝浦町職において、プレ印字を使用したじちろう団生同時加入の取り組みについて先行し試行します。 ③県本部・県支部・県推進本部合同の単組オルグを実施します。 |
|---|--|

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

| | |
|--|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認 <input checked="" type="checkbox"/> 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知 <input checked="" type="checkbox"/> マニュアルの単組への配布 <input checked="" type="checkbox"/> 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案 | <p>具体的な取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2024年12月の県支部共済推進委員会・単組責任者・担当者会議で2025年の新規採用者対策の基本方針と組合とじちろう団体生命共済の同時加入の取り組みの概要を提案しました。 ②2月から3月にかけて、県本部・県支部・県推進本部合同の単組オルグを実施します。その際に、推進マニュアルを周知します。特に単組での学習会で説明者に必要なトークスクリプトを中心に周知します。 ③2025年2月25日に、県本部主催の新規採用者対策会議を開催する予定です。ここでは、県支部から同時加入に向けた具体策や、プレ印字等の推進ツールの実際の展開方法を提案します。その中で推進マニュアルを配布し、新採説明会の組み方等も周知します。 |
|--|--|

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|--------------|
| 県名 | 大阪府本部共済推進委員会 |
| 作成日 | 2025年1月24日 |
| 作成者 | 金子 俊雄 |
| 確認者 | 田中 伸生 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|--|--|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」</p> <p>① 団体生命共済については11月時点で169件、到達率46.55%、マイカー共済は10月時点で199件、到達率40.86%、火災共済は10月時点で69件、到達率43.12%、自然災害共済は98件、到達率56.32%となっている。</p> <p>② 組合に加入し、自治労共済を活用することで、可処分所得が増えることなどが、未加入者に浸透しておらず、これらを活用して現場で活動できる担当者の育成が急務。</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」</p> <p>① 現在設定している、団体生命共済加入促進重点単組（7単組）を軸にして、推進計画の策定と進捗状況の確認を進める。</p> <p>② すべての単組については、共済を活用することで可処分所得が増えることなどについて、学習会や個別相談会を行っていく。</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p>取り組みと課題</p> <p>① 府本部と府支部とで連携し、グループ保険「ふれあい共済」の募集時期にあたる7月～8月に照準をあわせ、新採にとどまらず組合未加入者に対しても、じちろう共済との比較など、ライフステージに応じた適正な保障の提案につとめるなど、各単組に対して要請をしてきたが、一部の単組のみでの取り組みにとどまった。</p> <p>② 2024年9月に組織集会を開催し、第8次組織強化基本計画後期アクションプランを確認し、新規採用者の組織化の取り組みと労働者自主福祉および福利事業の推進について方針決定してきた。</p> <p>③ 団体生命共済において、若年層の加入拡大にむけた取り組みの強化をはかるとともに、長期共済および税制適格年金とあわせて加入促進するため、各地域ブロック（7ブロック）で重点推進単組を設定し取り組みを進めた。</p> <p>④ 1月に単組役員や共済担当者のスキルアップをはかるとを目的にファイナンシャルプランナー3級技能士資格取得講座を行った。</p> <p>⑤ 3月に府本部共済集会の開催を予定しており、4月の新規採用者組織化の取り組みを強めるため、各単組共済担当者を対象に制度の学習会等を行い、加入拡大にむけた取り組みを進める。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>① 1月23日に新採対策組織化指定単組（12単組）に対して、対策会議を実施</p> <p>② 2024年10月の府本部定期大会で府本部第8次組織強化基本計画を確認し、2月7日の第146回中央委員会で当面する具体的な取り組みとして策定予定</p> <p>③ 組合と共済の同時加入方針については、採用時期の違う場合も含めて、方針化し取り組みを進めている。</p> <p>④ 組合に加入し、自治労共済を活用することで可処分所得が増えることを中心に提案するように求めている。</p> <p>⑤ 2024年12月から組織化指定単組を中心に合同のオルグを行っている。</p> <p>⑥ 3月7日～8日にかけて、府本部共済集会で方針の確認と制度にかかわる学習会を行う予定。1月には共済推進委員会として、FP3級技能士資格取得にむけた講座を行い、共済担当者等のスキルアップの取り組みを進めている。単組独自の学習会については、府支部と連携し、一部の単組で行っている。</p> <p>⑦ 基本的に自治労本部、自治労共済本部が作成しているツールを活用しており、各単組に配布している。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

実施している取り組み☑してください。

- ✓ 組織化方針の単組への提起
- 対象者の把握と説明会等の実施
- ✓ じちろう共済のアピール

具体的な取り組み

- ① 60歳時点で組合員である者については、本人が申し出ない限り、自動継続加入とすることを方針化している。
「定年・退職により組合員資格を喪失する」と記載がある単組は、その定年・退職の扱いを確認し、大会もしくはそれに準じた機関会議において方針を決定することを求めている。
- ② 組合への再加入はしないが、自治労共済は継続利用したいとする者については「組合加入資格があるものは組合員にならないと、自治労共済は利用できず、契約更新時に継続ができなくなる」などと、共済継続のためにも組合再加入が必要であることを明確に説明することを求めている。また、60歳で脱退しようとする者については、共済の制度改正で85歳まで活用できることも正確に伝えるよう求めている。
- ③ 各単組に対して、3月までに個別加入オルグを実施するよう求めている。

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

実施している取り組み☑してください。

- ✓ 県本部共済推進委員会で進捗確認
- 県本部・県支部合同の単組オルグの実施

具体的な取り組み

- ① 毎月、第1水曜日を基本に行う、府本部執行委員会終了後に府本部共済推進委員会を開催し、進捗状況を確認している。
- ② 加入促進重点単組（7単組）ならびに組織化指定単組（12単組）を中心に行っている。

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

実施している取り組み☑してください。

- 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認
- ✓ 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知
- ✓ マニュアルの単組への配布
- ✓ 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案

具体的な取り組み

- ① 共済推進マニュアルに関しては、各単組へ配布済み。推進計画の作成時にマニュアルを活用するなどの指導は現時点で行えておらず、今後、各単組に対して方針化し提案できるよう努める。

県本部共済推進取り組み報告書

| | |
|-----|--------------|
| 県名 | 兵庫県本部共済推進委員会 |
| 作成日 | 2025年1月23日 |
| 作成者 | 石井 希佳 |
| 確認者 | 尾西 亮太郎 |

| 1. 県本部共済推進方針の目標達成にむけた進捗と重点的に取り組む課題 | |
|--|---|
| <p>※2024年6月 共済推進県本部・県支部合同会議で報告した県本部共済推進方針にもとづいた取り組み報告の「3.目標達成にむけた進捗と課題」、「4.今後、重点的に取り組む課題」をあらためて下記に記載してください。</p> <p>「目標達成にむけた進捗と課題」 継続募集での取り組みだけでは目標達成が厳しい状況にあるため、スポット募集を10月と3月に全単組で実施することで目標達成に向けた取り組んでいく予定にしています。</p> <p>「今後、重点的に取り組む課題」 以下の点が重点的に取り組む課題と考えています。 ① じちろう共済を知ってもらう活動（組合員に浸透させる取り組み）が不十分であるため、さらなる強化が必要であること ② 加入拡大モデル単組における取組を強化することと継続化させていくこと</p> | <p>左記、2024年6月報告以降の取り組みと課題および2026年度末団体生命共済保有目標達成に向けた取り組み2点について記入してください。</p> <p>10月スポット募集 18件 3月スポット募集 集計中 年間目標達成は厳しい状況にあります。</p> <p>現在、県本部の組織強化・拡大チームの中でも共済（団体生命共済）を活用した組織化に着手しているところであります。 また、共済利用を拡げていくためには、執行部の加入が不可欠であるものの、各執行委員の加入が進んでいない単組もあるため県本部春闘オルグにて各単組の執行委員の加入について県本部主導で要請をかけていくこととしております。</p> <p>2026年度末団体生命共済保有目標達成についても厳しい状況ではあるものの共済加入に向けた各単組の意識が前向きになってきている状況があるので、引き続き県本部（ブロック）・県支部が一体となって単組執行部に対する共済推進に取り組めます。</p> |
| 2. 共済推進県本部交付金の活用について | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 共済推進単組交付金規程にもとづき支払っている</p> <p><input type="checkbox"/> 単組に支払った交付金の使われ方を把握している</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>団体生命共済の加入促進と単組財政に寄与する県本部施策として、県本部諸会議の場において、「県本部共済推進単組交付金規程」を周知することで取り組み強化を図っています。</p> |
| 3. 2025年4月新規採用者対策 | |
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 県本部新採対策会議の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 新採組織化方針、具体的な取り組み提起</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入方針提起</p> <p><input type="checkbox"/> 同時加入に向けた具体策の提案</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施</p> <p><input type="checkbox"/> 県本部・単組主催の執行部学習会の開催</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組合と団体生命共済の同時加入に向けたツールの提供</p> | <p>具体的な取り組み</p> <p>・2月4日に開催する単組執行部・共済担当者会議の中で、2025年4月新採に対する具体的な取り組みを提起していく予定。 ・組合と団体生命共済の同時加入方針についても2024年8月開催の単組代表者会議で提起済み。 ・ツールについても本部から提供され次第、単組に提供し、活用していく予定。</p> |

4.2025年3月末の役職定年者、再任用、再雇用者への対応状況

| | |
|--|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 組織化方針の単組への提起 <input type="checkbox"/> 対象者の把握と説明会等の実施 <input type="checkbox"/> じちろう共済のアピール | <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に対し、単組で個別に対応を進めている状況。 |
|--|---|

5.加入拡大モデル単組に対して県本部の関わり方について

| | |
|--|---|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 県本部共済推進委員会で進捗確認 <input type="checkbox"/> 県本部・県支部合同の単組オルグの実施 | <p>具体的な取り組み</p> <p>2か月に1回開催している県本部共済推進委員会で進捗状況について確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県職労 2024年4月新採より新たな取り組みを開始。直近ベースで新規29件と目標の30件まで残り1件の状況。 ・朝来市職労 現在2025年7月継続の取り組み中。組合から臨時ニュースの発行と未加入者に対し加入案内を実施していく段階。 ・姫路市職 現在2025年7月継続の取り組み中であり、取組期間中に4日間個別相談会を設定し開催する予定。姫路市職のみならず姫路市労連（姫路市職・姫路水道・姫路市従）全体として取り組みを進めている状況。 |
|--|---|

6.じちろう共済推進マニュアルの単組への落とし込みや活用方法の提示など

| | |
|---|--|
| <p>実施している取り組み☑してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 執行委員会・共済推進委員会で冊子の内容を確認 <input checked="" type="checkbox"/> 単組代表者会議等において、マニュアルの内容および活用方法を全単組へ周知 <input checked="" type="checkbox"/> マニュアルの単組への配布 <input checked="" type="checkbox"/> 単組執行部オルグ等において、各単組が「2025年3月末退職予定者対策」「2025年4月新採取り組み」にむけて、推進計画の立案や具体的な実行内容を協議する際に本マニュアルを参照するように提案 | <p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年12月開催の共済推進委員会で内容および周知方法を協議・確認 ・2月4日に開催する単組執行部・共済担当者会議にてマニュアルの活用方法を周知していきます。 |
|---|--|